

OA義務化へのシステム対応の検討

国立情報学研究所

河合将志

義務化にあたっての検討事項

- ✓ OA義務化の施行は2年後の予定
- ✓ 従来のグリーンOAは履行手段のうちのひとつ
- ✓ しかし … グリーンOA未実施機関が大半
- ✓ 未実施機関による実施をどう実現？

ホーム > ニュース > 科学・IT

G7サミット 最新ニュース > 参加メンバー > コラム > 過去サミット >

公的資金研究 論文の無料公開義務化…ネット上 成果の還元狙う

2023/05/10 05:00 G7サミット この記事をスクラップする

論文をオープンアクセスにする手段

政府は、公的資金で研究を行った学術論文について、インターネット上で誰でも無料で読める「オープンアクセス（OA）」にすることを研究者に義務づける方針を固めた。研究成果を速やかに国民に還元することが狙いだ。12～14日に仙台市で開かれる先進7か国（G7）科学技術相会合で、OAについての国際連携を呼びかける。

▶中国のG7サミット反発が影響か、名古屋でのアジア大会PRイベント中止

学術論文は通常、出版社が発行する学術誌に掲載されるが、購読料の高騰に伴い、大学などは購読する学術誌を減らしている。OAで研究成果を共有しやすくなれば、広く読まれる上、他の研究者から引用されて評価される機会も増える。その結果、研究の加速や新たな技術革新などにつながると期待できる。

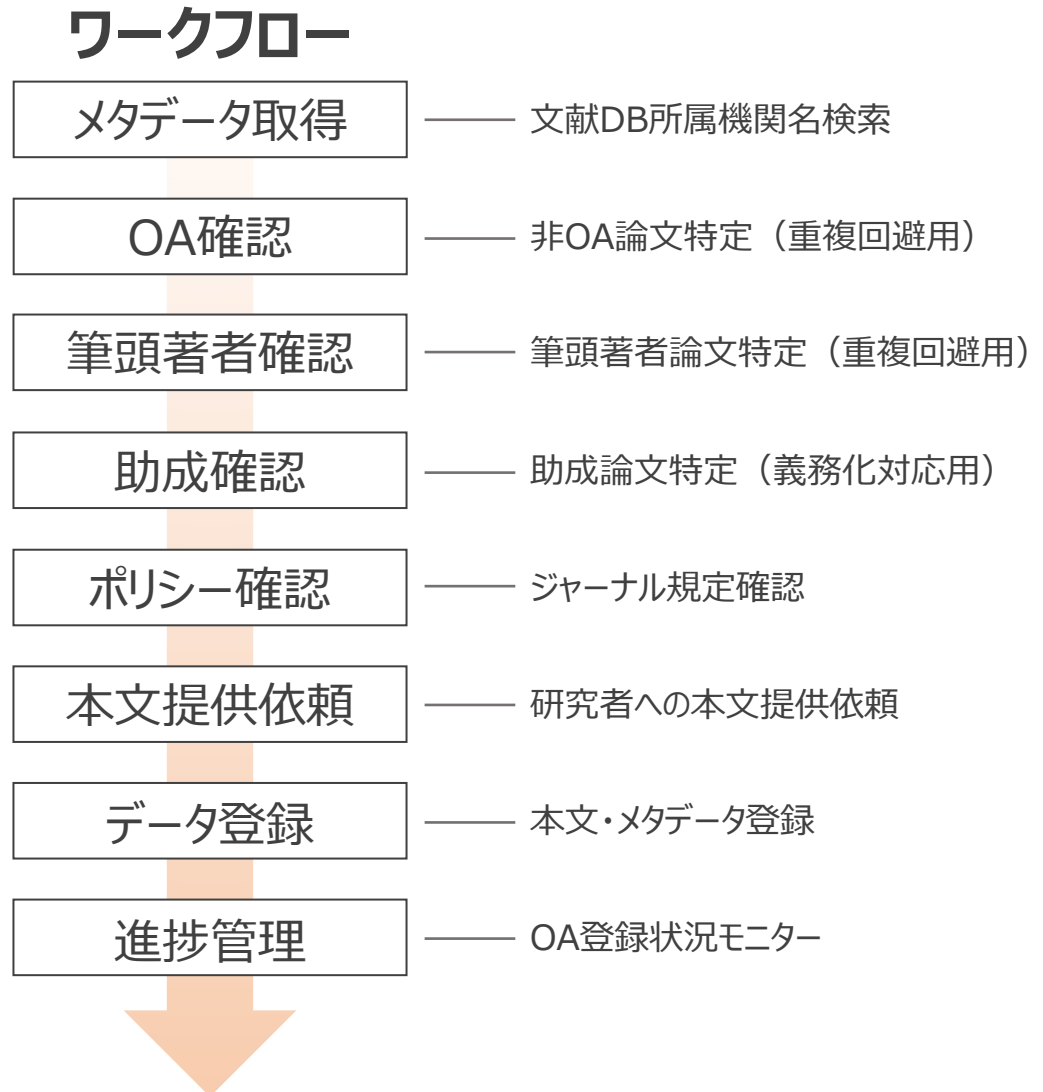
読書新聞オンライン

<https://www.yomiuri.co.jp/science/20230510-OYT1T50020/>

未実施の原因

原因

✓ 図書館への負担大！？

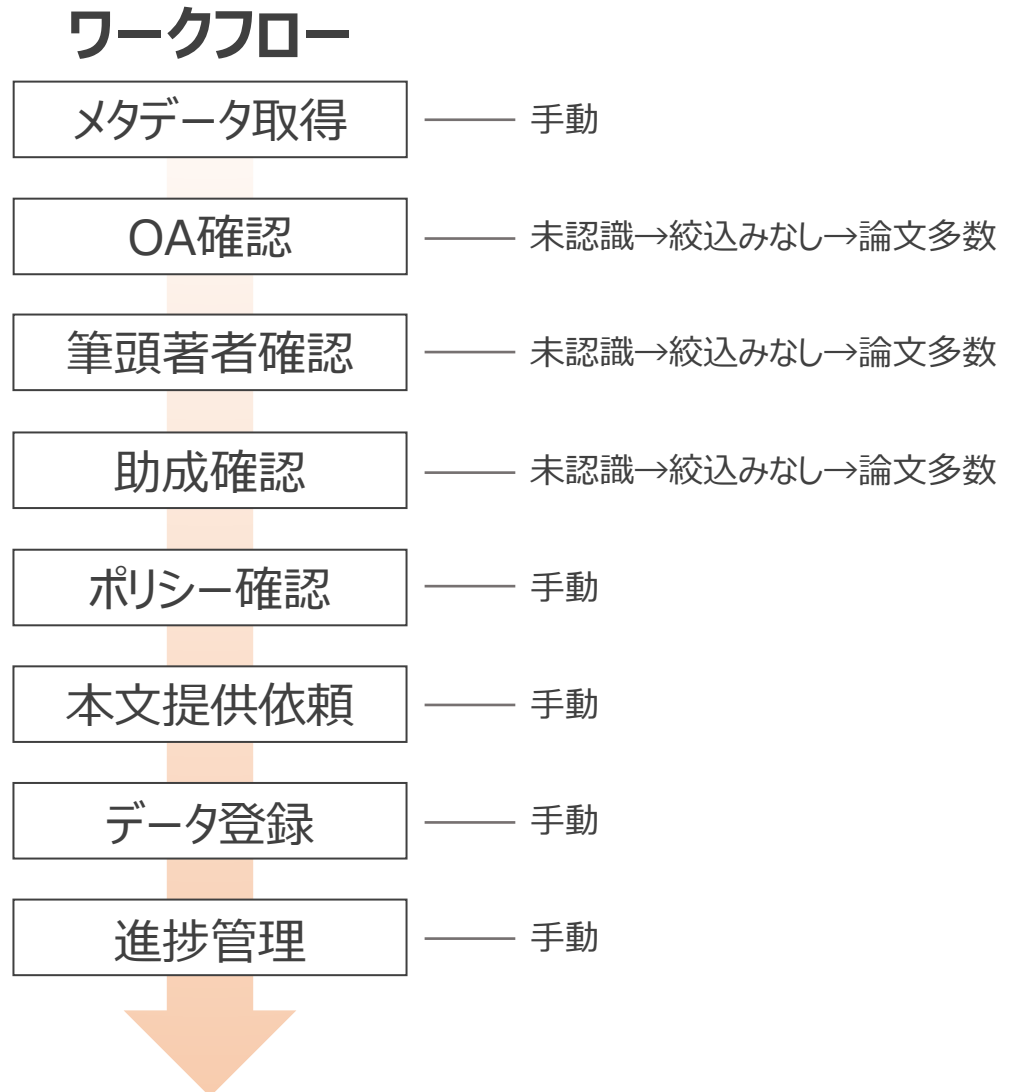


負担の性質

性質

✓ 手動 × 未認識

= 手動による悉皆処理



負担軽減の方法

方法

✓ 自動化 × 通知

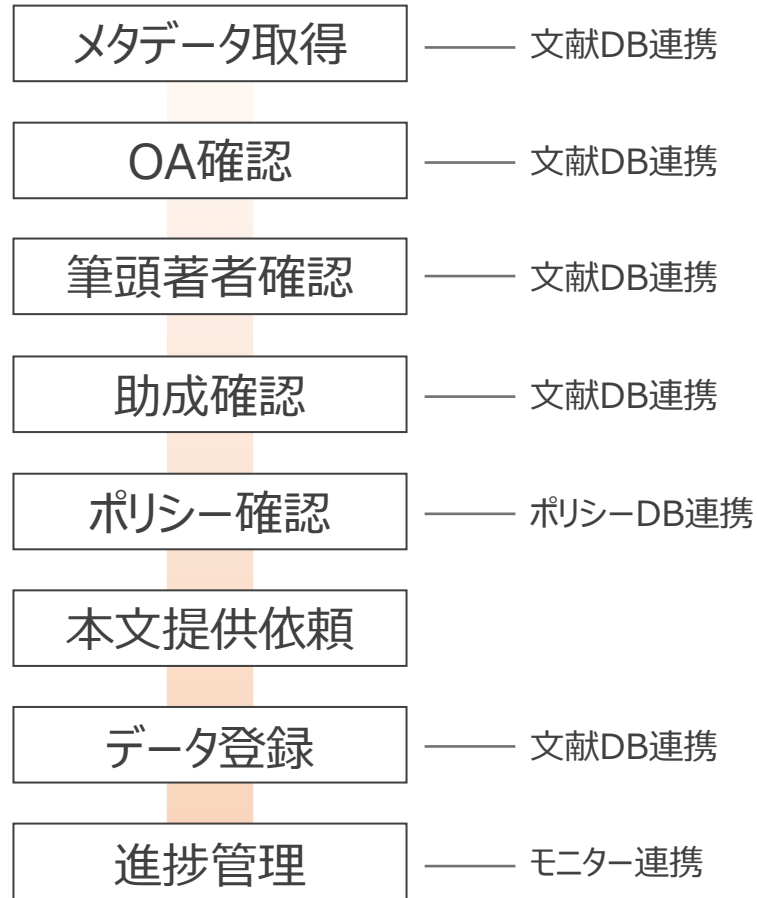


自動化・通知の具体策

具体策

- ✓ 文献DB連携
- ✓ ポリシーDB連携
- ✓ モニター連携

ワークフロー



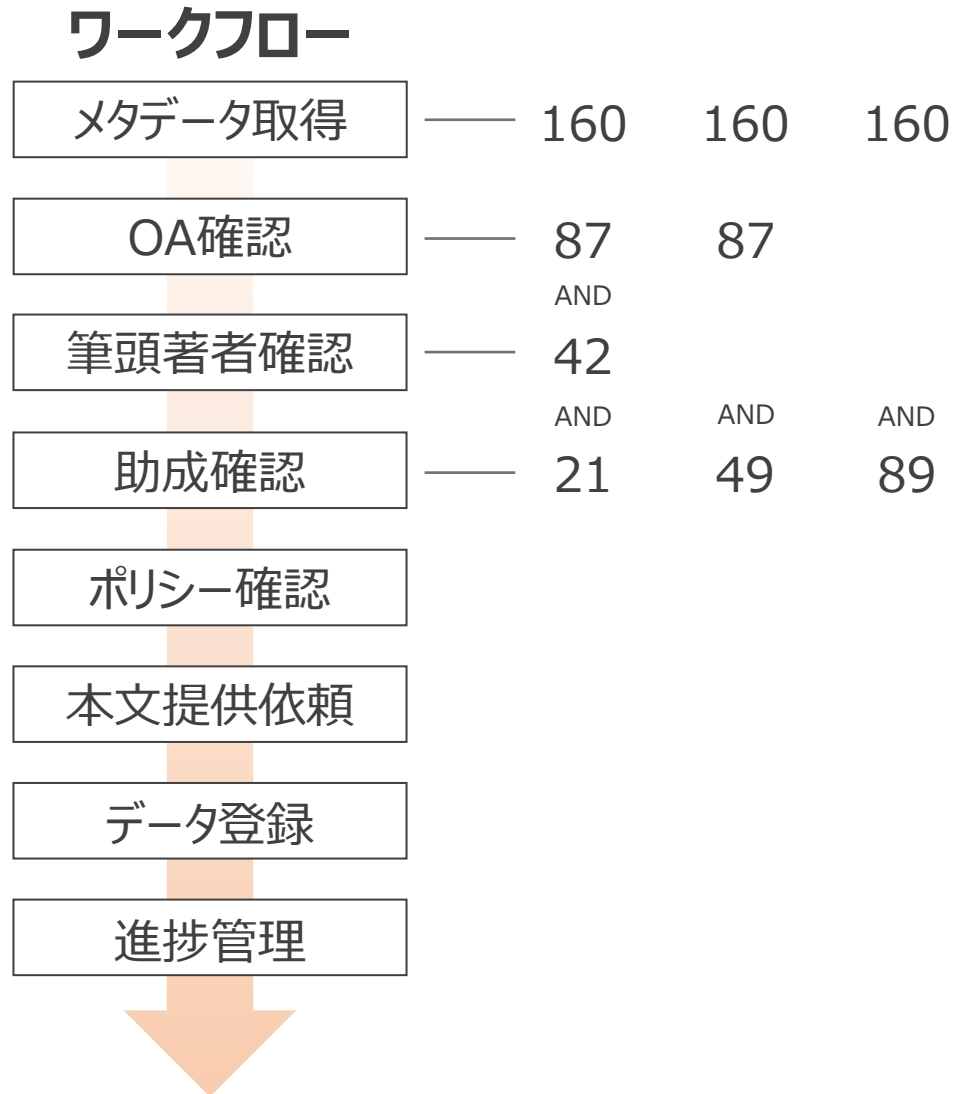
補足：絞込みによる論文数の変化

変化

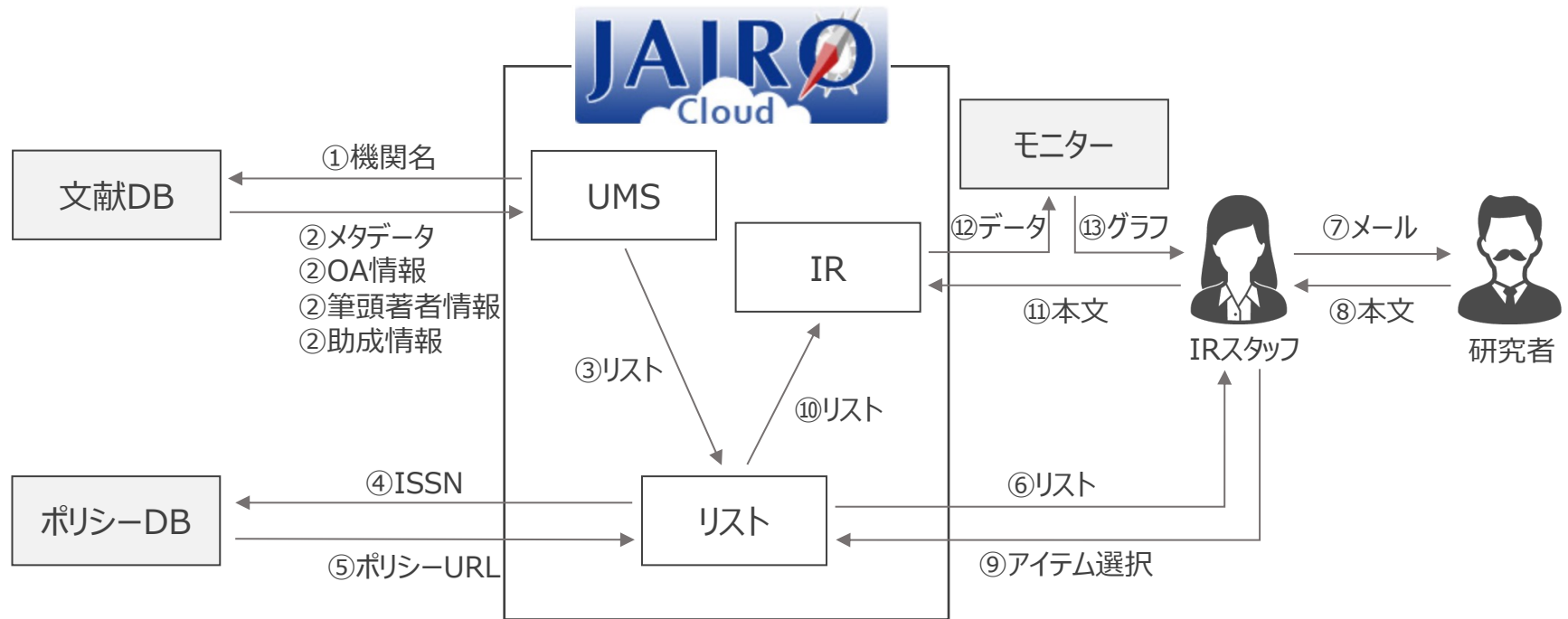
✓ タスク毎に約50%減少

クエリ：東京大学

期間：4/23～29

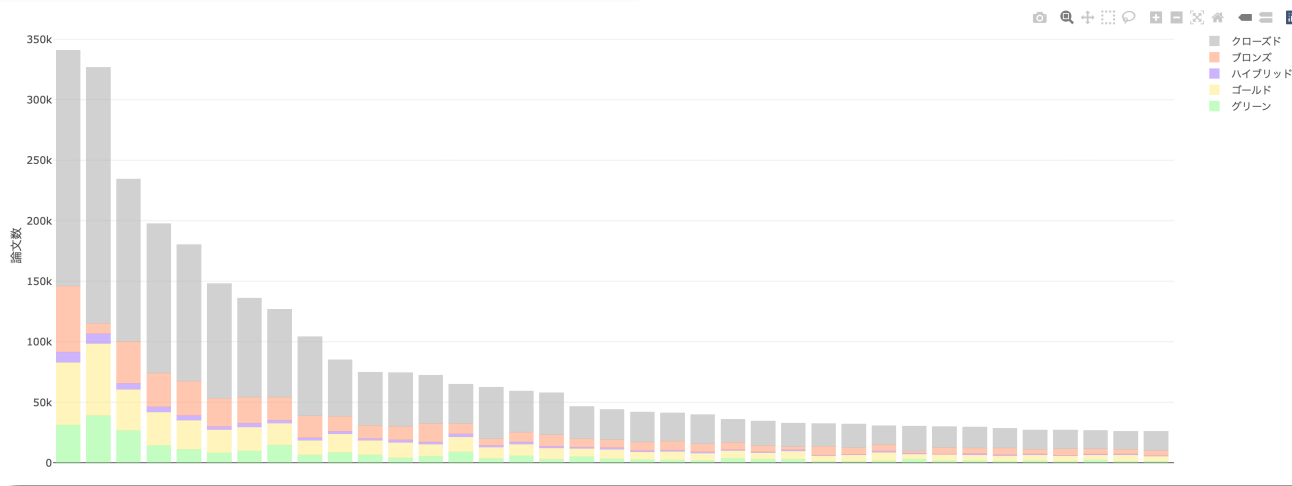
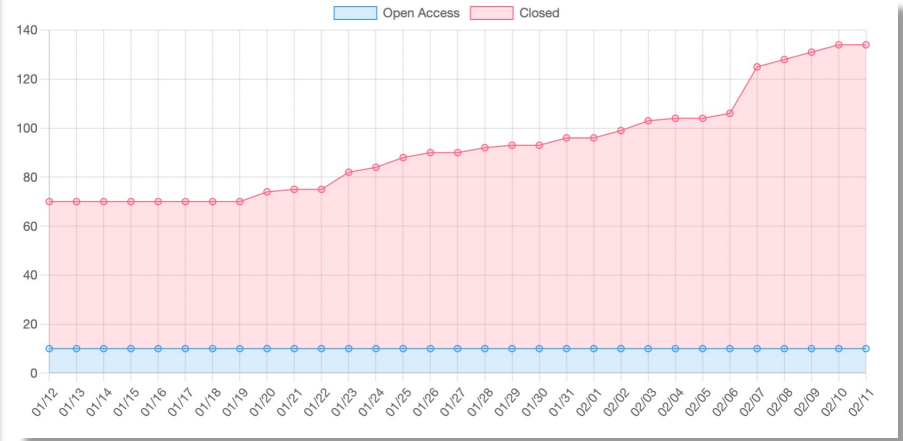


機能の概要



ユーザーインターフェイス (イメージ)

論文情報	版区分	OAステータス	データ取得日	ポリシー確認日	ステータス/メモ
<p>ID: WOS:000752511400001</p> <p>Cu/N-Oxyl-catalyzed aerobic oxidative esterification to oxalic acid diesters from ethylene glycol via highly selective intermolecular alcohol oxidation</p> <p>Morino, Yusuke / Yatabe, Takafumi / Suzuki, Kosuke / Yamaguchi, Kazuya</p> <p>GREEN CHEMISTRY, (2022)</p> <p>DOI: 10.1039/d1gc04001d</p>	AM	closed	2022/02/21	2021/04/01	資料調査中
<p>ID: WOS:000752769300001</p> <p>Influence of the spark plug mounting angle on spark ignition process at different flow velocities</p> <p>Ren, Fangsi / Takehara, Naoto / Nakaya, Shinji / Tsue, Mitsuhiro / Adachi, Ryo, and 1 authors</p> <p>INTERNATIONAL JOURNAL OF ENGINE RESEARCH, (2022)</p> <p>DOI: 10.1177/14680874211073937</p>	AM	closed	2022/02/21	2021/04/29	著者回答待ち メールにて依頼済み。



結論とお知らせ

- ✓ 未実施機関による履行をどう実現？：システムの活用により可能
- ✓ 今年度初秋のデプロイを目標に開発中
- ✓ 利用希望JCユーザー募集中（LENSとの個別契約不要）

ご清聴ありがとうございました

m-kawai@nii.ac.jp